

## CEFR の能力記述文

Part 2 で扱った、自身が英語を使って何が出来るかについて考える目安として、また、Part 5 で扱った、最終目標、長期目標、短期目標（行動目標）のうち、長期目標で「○○ができるようになる」という目標を考える参考として、CEFR の能力記述文の一部を提示します。能力記述文自体は、そのまま目標の記述文として使う意図で作成されたわけではないのですが（コースカリキュラム作成や授業計画の指針としての参照資料）、長期目標をどのような記述で設定するかを考える参考に、上と下のレベルで、違う要素について考えてみてください。

CEFR も 1990 年代に登場以来、かなりの変遷を遂げ、現在の CEFR では、言語スキルだけでなく、社会言語、社会文化的要素、発言権の取得や維持、仲介、言語意識、手話など、多岐の要素に渡っています。言い換えれば、ある言語を巧みに使用するということは、多くの要素が関連しあって成し遂げられるということです。その詳細をもっと知りたい方は、以下の出典を参照してください。

Part 1 からずっと、実践的な英語力と試験のための英語との関係性を 2 つの円で示してきましたが、試験のための英語というのは、このような様々な要素が複雑に絡み合う言語使用の力の一部分を切り取って、数値化を試みたものであり、なぜ、試験のための英語が円の大きな部分を占めないか、理解できると思います。

### 【出典】

Council of Europe (2020) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment-Companion volume*.

欧州評議会（2020）吉島茂、大橋理枝、森壮也（訳）『言語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠 随伴版』

<https://www.goethe.de/resources/files/pdf328/cefr-cv-jap-mit-cover-finale-neu-v3.pdf>

## 受容（インプット）的活動

テレビ・映画・ビデオを見る	
<b>C2</b>	利用できる能力記述文はない。C1 参照。
<b>C1</b>	相当数の俗語や慣用表現のある映画が理解できる。 例えば、時事問題番組、インタビュー、討論番組や対談番組のような、かなり要求の高いテレビ放送で提示されている議論を詳しく理解できる。 もし、標準の言語、あるいは馴染みの言語変種でなら、大抵の映画や、劇、テレビ番組に出て来るニュアンスや含意を理解できる。
<b>B2</b>	ニュースや時事問題番組の議論や討論の主な点を抜粋できる。  たいていのテレビのニュースや時事問題の番組が理解できる。 ドキュメンタリー、ライブのインタビュー、トークショー、劇、大半の映画を、それが標準的な形の言語あるいは言語変種なら、理解できる。
<b>B1</b>	話し方が比較的ゆっくりしていて明瞭であれば、インタビュー、短い講演、ニュースレポートなど本人の関心事である話題を扱った多くのテレビ番組の内容を大方理解できる。  映像と人の行動が話の大筋を伝え、明瞭で簡潔な言語で話されていれば、かなりの映画が理解できる。 話し方が比較的ゆっくりしていて明瞭であれば、身近な話題についてのテレビ番組の要点をつかめる。
<b>A2</b>	出来事や事故などを報ずるテレビで、視覚的情報がコメントを補うものであれば、主要点を把握できる。 映像が理解を大いに助け、言葉も明瞭で比較的ゆっくりしていれば、テレビのコマーシャルや、映画の予告やあるシーンについて行くことができ、どんな話題なのか分かる。  テレビニュースの出来事を報じているニュースの項目が変化したときにそれについて行くことができ、主な内容のイメージを掴むことができる。
<b>A1</b>	ニュースの見出しの要訳や、多くの広告で宣伝されている製品で、視覚情報と一般知識を動員して、馴染みの単語/や手話表現を認識し、主要な要点を認識できる。
<b>Pre-A1</b>	視覚情報と事前に得ていた知識を基にビデオドキュメントの主題を把握できる。

欧州評議会（2020：p. 34）